

5月のアルミレポートおよび6月の見通し(3)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎



【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-2.9%、17万1923t、4カ月連続マイナス。

【板類】

生産・出荷共に4カ月マイナス。

- (1)缶材37,148t(▲3.0%)。ビール系飲料の低調に加え、ボトル缶の伸びが停滞しており、3ヶ月連続でマイナス。
 (2)自動車14,464t(7.1%)。乗用車へのアルミ需要増やトラック架台の好調により、3ヶ月連続でプラス。
 (3)輸出16,320t(▲0.3%)。4ヶ月連続でマイナスとなったが、需要としては前年並。

【押出類】

生産・出荷ともに4カ月ぶりプラス。

建設37,393t(0.3%)。新設住宅着工数は落ち込んでいるが(3月の着工戸数:69,616戸、対前年同月比:▲8.3%)、東京オリンピック・パラリンピックに向けた都市開発の整備に伴う建設向け需要は継続し、9ヶ月ぶりにプラス。

自動車11,847t(1.7%)。乗用車へのアルミ需要増やトラック架台の好調により、3ヶ月連続でプラス。

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

前年比+3.9%、6万8,778t、7カ月連続プラス。

出荷は+4.8%、6万9,435t、7カ月連続プラス。

内出荷先は鋳物+5.7%、ダイカスト+5.3%、板-0.8%、押出-6.3%、鉄鋼+15.4%、合金地金メーカー-3.9%。

【輸出】

アルミ新地金が前年比-15.9%の53t。二次合金が-55.8%の1,341t。スクラップが-3.9%の7,755t。アルミ缶が20.7%の6,692t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比-0.8%の12万3,320t。

二次合金が+4.1%の10万4,901t。スクラップが-3%の594t。合金スクラップが+4.6%の3,842t。

【見通し】

- ・自動車は生産が+0.2%。国内販売台数が前年比-0.6%。小幅ながら生産が3カ月ぶりプラス、販売が7カ月ぶり再びマイナス。販売が増加に転ずるかどうかが今後注目。
- ・アルミ圧延・押出品生産数
板類・押出生産合計は前年比-2.9%、4カ月連続マイナス。今後マイナスが続くかの動向に注目。
- ・アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績

前年比+3.9%、6万8778t、7カ月連続プラス。

出荷は+4.8%、6万9435t、7カ月連続プラス。

今後もプラスが続くか注目。

- ・アルミ輸出は、アメリカの輸入規制に伴う地金高を受けて減少。アルミ缶は内需の荷余り感から増加。
- ・アルミ輸入は地金、スクラップは採算面が合わず減少。ただし二次合金etc自動車関連は増加。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は米国のアルミ鉄鋼製品の関税問題による地金タイト化から地金価格が上昇しており、スクラップもそれに伴い問屋サイドも段階的に売却しており、タイトではないか？
 需要面に関しては前月に続き自動車の生産、販売が低迷していること、輸入地金の下落を受けて荷余り状態になるのではないかと？

【価格・為替予想】

今月は6月12日開催予定の米朝会談及び米国のアルミ・鉄鋼製品の輸入規制に左右される。

米朝会談に関しては、二転三転したうえで開催であり、北朝鮮がトランプ大統領への脅しで失敗した後の開催であることから脅しが通用しないことは承知の上。大きな前進があるのではないかと？

米国のアルミ鉄鋼製品の関税問題に関しては、6月1日から鉄鋼・アルミに対する米国関税措置が実施された。

現時点で影響が出ていないようでも、長期的には貿易摩擦などで、影響は避けられないのではないかと？

それらを踏まえた6月のアルミ価格は米朝会談が問題なく行われ、関税の影響がでなかった場合、先月高値の2,400ドルを予測。いずれかの場合は2,300ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合先月安値の2,200ドル。

為替は、上記材料から、ドル円値は108円~110円(TTM)台を予測。スクラップ購買価格に関しては0~10円程度と予測している。

【5月のアルミレポートおよび6月の見通し】終了

弊誌収録サイトのアドレスが変わりました。

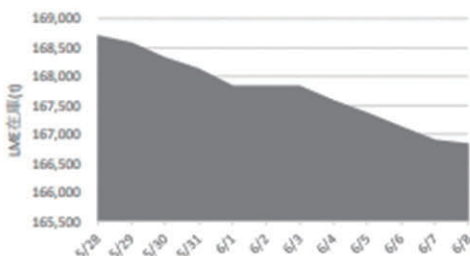
既刊号も順次収録してまいります。

<https://nikkankinzoku.co.jp/>



LME認定倉庫在庫量推移 5月28日~6月8日(現地)

北米特殊



ニッケル

